



# みゆきの里通信

Vol. 19 2012 summer / 御幸病院広報誌

## 今後の行事予定 event schedule



8月2日(木)  
みゆきの里夏祭り  
午後6時20分～午後9時

プログラムの詳細については、  
後日ホームページでお知らせします。

昨年夏祭りの様子

## 担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1 診察室	午前		江頭				
	午後					江頭	
第2 診察室	午前	津出	吉田	山浦	川野	吉田	担当医
	午後	高木	本田	高野	高野 金場★	津出	
第3 診察室	午前						
	午後			和田山			
鍼灸 治療室	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		
歯科室 1	午前	田川	田川	田川	田川	田川	田川
	午後	田川	田川	田川	田川	田川	

●王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後  
不定期 ★第1, 3, 5 (木) 午後:高野 2, 4 (木) 午後:金場

長尾名管院長 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。

吉田院長  
津出診療部長  
川野内科医長  
本田医師 内科を中心として、種々の診療を担当します。  
高野医師  
高木医師  
山浦医師

磯貝ホスピス医長 緩和ケア病棟を担当します。

江頭医師 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。


和田山医師 整形外科を担当します。

田川歯科医長 歯科を担当します。予約が必要です。

●リハビリテーションの担当医:川野、吉田、津出、高木  
●緩和ケア入院相談 月～土 8:30～17:30(随時)  
相談窓口:医療連携室

## ニュース news


### みゆきの里 健康と食のまつり開催



6月2日(土)、みゆきの里で「健康と食のまつり」が開催されました。今年のまつりはあいにくと雨模様となり、メインステージでの演目を楽しみにされていた皆様も、会場中央の大テントの中でのご参加となりました。悪天候の中多くのご来賓にもおいでいただき、健康と食のまつり開催の祝辞を賜りました。

大テントの中ではその後も、「認知症サポーター養成講座」や「健康トークショー」などの催しに、ご来場の皆様も大いに沸きました。さらには皆さんお馴染みのくまモン及びロアツ君が登場するに及び、会場のテンションは最高潮に。子供さん達が雨にも構わずテントを飛び出し、両キャラクターやロアツ熊本の選手の方々に手を振っておられました。

午後になってメインステージでは、雨をものともせず、地元の高中生やサークルの皆さんがダンスやパレエ、踊りを披露。こちらも大喝采でした。この間、メイン会場では各種の出店も大変な賑わいだったようです。



～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

## 医療法人博光会 御幸病院

【診療科目】  
内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科・リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・小児科・歯科・麻酔科(ペインクリニック) [医師:岡崎止雄]

【診療受付時間】  
平日 午前8時30分～午後5時  
土曜 午前8時30分～午後12時  
※但し急患は何時でも受け付けます。

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

【施設概要】  
●緩和ケア病棟:20床  
●一般病棟:30床  
●回復期リハビリテーション病棟:85床  
●医療療養型病床:51床  
●併設:訪問看護ステーション「みゆきの里」

発行/医療法人博光会 御幸病院  
〒861-4172 熊本市南区御幸苗田6-7-40  
TEL:096-378-1166 FAX:096-378-1762  
メールアドレス info@miyukinosato.or.jp  
ホームページ http://www.miyukinosato.or.jp/

●ケアハウス ビオニーガーデン ●ウエルネススクエア 和楽 ●介護老人保健施設 ぼたん園  
●軽費老人ホーム 富貴苑 ●特別養護老人ホーム みゆき園 ●小規模多機能ハウス ほがらか  
●グループホーム ほがらか ●レストラン ビオサルーテ



特集 P2 緩和ケア病棟

「その人らしさ」を全うできるケアを  
～緩和ケア病棟の静かな挑戦～

P1 理事長ごあいさつ/CIについて  
P2 特集 緩和ケア病棟  
P5 みゆきのひとヒト人 陣田先生  
P6 Dr.コラム/みゆきの広場  
P7 今後の行事予定/担当医表/ニュース





医療法人博光会 理事長  
富島 三貴

御幸病院広報誌「みゆきの里通信」第19号をお届けいたします。

御幸病院をはじめとしたみゆきの里のCIロゴマークを本年4月で一新し、それに伴いこの御幸病院広報誌も、「みゆきの里通信」としてリニューアルいたしました。

新ロゴマークは、オレンジの「みゆきリング」と、緑色の「グランドライン」で構成しています。リングはみゆきの里が大切に「絆、連携」を表し、またそのメビウスの輪をデザインしたループが、「安らかに過ごせる」という「時間」と、また「恒久的に前進・発展する」という「運動性」も表しています。グランドラインは「地域と密接なつながりを大切に」という、みゆきの里の意志を表しています。

オレンジは「やさしさ」「幸福」のカラーであり、また、御幸笛田の田園風景を表すグリーンと合わせることで、田園を美しく照らし出す太陽をイメージしました。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



みゆきの里

みゆきの里の創業の理念と歴史を大事にしなが、これからの10年計画を一つ一つ推進していきたいと考えています。「福祉の原点は在宅にあり」「予防が大事」を軸に、御幸病院及びみゆきの里は、これまで通り地域に密着して保健・医療・福祉の総合サービスを提供し、皆様が住み慣れた地域でいつまでも健やかに生活が出来るよう様々な取り組みを重ねて参ります。

さて、リニューアルした「みゆきの里通信」では、みゆきの里の人物に焦点を当てた「人・ひと・ヒト」のコーナーを設けました。記念すべき第一回は御幸病院特別顧問である陣田泰子先生にお話を伺っています。～人が人をおもう、人が人をつつむ～まさに私達は素晴らしい方々に支えられて歩んでいることを実感しています。

今後も、御幸病院広報誌「みゆきの里通信」をどうぞよろしくお願いいたします。



みゆきの里通信 特集 緩和ケア病棟

# 「その人らしさ」を 全うできるケアを 緩和ケア病棟の 静かな挑戦

## 御幸病院 緩和ケア病棟

医師：磯貝 雅裕

看護師長：上谷 珠代

看護主任：池邊 美紀



左から磯貝医師、上谷看護師長、池邊看護主任

今年10周年を迎えた『御幸病院』の緩和ケア(ホスピス)病棟。治すことを目指した積極的な治療ではなく、体の痛みや心の苦しみ不安を和らげる治療を主に行う施設です。近年では、アロマや漢方、動物介在活動など統合医療も取り入れ、より良い環境づくりに力を注いでいます。患者様本人とご家族が「その人らしい人生」を全うするために出来ることは何なのか？ 自問自答を繰り返しながら最適なケアを模索するスタッフの皆さんに話を聞きました。

### 10年目を迎えた緩和ケア(ホスピス)病棟

『みゆきの里』に緩和ケア病棟が誕生した10年前は、県内でも珍しい施設として注目を集めたというホスピス。現在ではその数も増え、認知度も

高まってきました。現在『みゆきの里』の緩和ケア病棟は20床。主に末期癌の患者様が、苦しみや痛みを和らげて穏やかな生活を送るために運営されています。

設立当初からこの病棟に携わってきた磯貝医師に聞くと「ここは、通常の病棟に比べて患者様とスタッフが接す

る時間が長いんです。苦痛を取り除くための適切な処置を行うことはもちろん、生と死を見つめて、一緒に寄り添うことが必要なんですね」と穏やかな口調で答えてくれました。

「ホスピスに入院される患者様の中でも、スムーズに死を受け入れられる方はまずいらっしゃいません。絶望や悲しみ、さまざまな葛藤を抱えていらっしゃる患者様がほとんど。ですから、私たち緩和ケア病棟のスタッフは、一般的な処置やケアだけではなく、患者様の感情の揺れを全力で支えることも大切な仕事です」と語るのは、上谷看護師長。

池邊看護主任は「入院されている患者様は、食事や入浴、排泄など日常の動きが日々困難になるケースが多いものです。数日前まで当たり前に出たことが出来なくなる。それは大きなショックだと思います。そういった場面で、患者様をどう支えていったらいいのか？ 心穏やかな生活を送ってもらうために、私たちに出来ることは何か？ 常に考えながら日々の業務に取り組んでいます」と微笑みます。

## 幅広い年代の スタッフ構成が強み

現在、緩和ケア病棟は医師2名、看護師18名、介護職3名という構成で運営されています。メンバー全員が、ホスピス勤務を希望して配属されたスタッフで、その年代も20代～50代とさまざま。「幅広い年代のスタッフがいることで、患者様にとってはもちろん、スタッフ同士も助かっていますね」と顔を見合わせます。ある時は孫のように、またある時は同年代の友人のように…。複数のスタッフが異なる立場で患者様やご家族に接することで、より密度の濃い情報を得られるのだそう。また、スタッフが壁にぶつかってしまった時も、互いに経験やノウハウをフィードバックすることで、より適切なケアを目指していけるといいます。「それぞれが壁にぶつかりながらも、

看護や介護の原点に立ち戻っている感覚でしょうか。ここでは、たくさんの人との出会いと別れがあります。落ち込むことや苦しいこともあります。患者様やご家族の感情の揺れを受けとめるためには、スタッフは平常心を保つことが大切です。そのためにも、頼もしい仲間存在は不可欠ですね」と力強い答えが返ってきました。

## ご家族の悲しみに 寄り添う「遺族会」

『御幸病院』の緩和ケア病棟では、春と秋の年2回、遺族会を開催しています。「患者様本人だけではなく、ご家族のケアも重要です」と職員医師。「最期のときを受け入れられた患者様は、徐々に身体的な痛み、精神的な苦しみや不安の両方から開放されて楽になっていきます。しかしそれに反して、ご家族の苦しみは臨終を迎えても終わらな

いのです。むしろご本人が亡くなった後にピークを迎えることが多いんです。ですから、患者様ご本人はもちろん、ご家族の支えになることも忘れてはいけません」と語ります。遺族会で感情や思い出を共有することにより、故人を悼みながらも悲しみを和らげることができる。また、担当スタッフからの弔電やお手紙も、とても喜んでいただけるそう。「大切な時間を一緒に過ごしたスタッフだからこそ、できることがあるの shouldn't でしょうね」と上谷師長。池邊主任は「遺族会でお元気な姿を拝見できることが、私たちスタッフにとっても救いになっていますね」とやさしい笑顔をのぞかせます。

## ホスピスを支える 縁の下の力持ち

ホスピスボランティアも、緩和ケア病棟にとって欠かせない存在です。

一般から募集し、講習を受けたボランティアスタッフは、現在数十人。交代で病棟を訪れ、患者様やご家族のサポーターとして活躍しています。「この緩和ケア病棟は、花が絶えたことがないんです。四季折々の植物や、季節の行事飾りを持ってきてくださるボランティアの皆さんのおかげですね」とうれしそうに職員医師。

長年ボランティアスタッフの姿を眺めるうちに、気づいたことがあるといいます。「患者様でもご家族でもない、もちろんスタッフでもない。何気ない第三者の存在そのものが、気持ちを和やかにしてくれるということがわかりました。明るい笑い声や表情が、病棟に外の風を運んで来てくれるのです。また、スタッフではないからこそ、患者様も素直に心の内を語ってくれることがあります。今では風景の一部になっているというホスピスボランティアの皆さん。空気のようにさりげなく、かけがえ

のない存在だといえるでしょう。

## 病棟のテーマ 「その人らしさを大切に」

「このテーマは、本当に深くて難しいですよ」と苦笑するスタッフ達。その人らしさって何だろう？ 自分らしく生きるってどういうこと？ いい看取りとは？ いい最期とは？ 一つのテーマから派生する課題に対して自問自答を繰り返しながら、スタッフ全員が自分なりの答えを模索しているそうです。あくまで私なりの答えですが…と職員医師。「“その人らしさ”とは基本的に良いものであり、その人なりの感謝を表現する仕方だと思います。また10年目を迎えてみて、初めて辿り着いた考えがあります。それは、私たちの理想を押しつけてはいけないということ。患者様の数だけ、ご家族の数だけ、いい看取りがあるので、それぞれのご家

族の思いをどれだけサポートできるか？ という点に力を注ぐようになりました」と振り返ります。

「お誕生日を一緒に祝えることが、何よりの喜び」という上谷師長。患者様のお誕生日には、スタッフ皆で寄せ書きをプレゼントして、病室でパーティを開くのだそう。「その方が生まれた記念日を共に祝える喜び。患者様やご家族が喜ばれる笑顔を見ると、嬉しくて涙が出そうになりますね。ここで出会えたこと、最期を迎える大切な場所に選んでいただけたことに感謝しながら、一つひとつの出来事を大切にしていきたいです」と瞳を輝かせながら語ってくれました。

そして「日々の繰り返しを、コツコツと。患者様やご家族からいただく、たくさんの喜びを忘れずに」と自らに言い聞かせる池邊主任。「患者様が語られる一字一句が、私たちの宝物。多くのことを学ばせていただきながら、成長していきたいですね」と締めくくりました。

アロマセラピー：「毎月1回、アロマの勉強会を開催しています。みゆきの里独自のアロマ資格認定制度もあります」

動物介在活動：「毎月1回、ボランティアのご協力で患者様と動物が触れ合う機会を作っています」



特別顧問

# 陣田 泰子

先生

Yasuko Jinda



**[profile]**  
陣田 泰子 じんだ やすこ  
諏訪赤十字高等看護学院卒。  
玉川大文学部教育学科  
東洋英和女学院大学院修了。

諏訪赤十字病院を振り出しに、聖マリアンナ医科大学に勤務の後、川崎市立看護短大(助教授)、健和会臨床看護学研究所、聖マリアンナ医科大学病院・ナースサポートセンター長、同院統括看護部長を経て、2011年より済生会南部病院院長補佐。  
「看護現場学への招待」「看護現場学の方法と成果」ほか、著書多数。  
看護師教育のための「看護現場学」として「陣田メソッド」を提唱、普及活動を行っている。

## 共に学び、高め合える 組織の一員として

昨年4月より『御幸病院』の特別顧問に就任された陣田泰子先生。看護の現場における豊富な経験を持ち、看護師教育のための「看護現場学」として、自ら編み出した『陣田メソッド』を提唱されています。陣田先生の目に映る『御幸病院』及び『みゆきの里』そして看護のこれからは？ 陣田先生へお話を聞きました。

### —「みゆきの里」との出会いとは？

**陣田** 2年前に全体研修の講師に呼んでいただいたことがきっかけです。私の専門は看護学ですから、それまでも看護師向けのセミナーに呼んでいただいたり、ワークショップを行う機会は多かったんですね。しかし、多職種共同の研修というのは初めてで、驚きました。看護師や介護職はもちろん、医師や薬剤師、事務の方々まで看護について学ばれるというのですから！これは全国でも珍しいこと。皆さんがひとつの目標に向かって、共に学ばれる姿勢が素晴らしいなと思い、強く印象に残っていました。

### —その研修では、どんなプログラムに取り組まれたのですか？

**陣田** これまでの経験の中で一番忘れられない患者さん、利用者さんのことを思い出してストーリーにまとめ、グループごとに語り合うというプログラムを実施しました。皆さんそれぞれ、思い出に残る出来事があったとしても、忙しい毎日の中に埋もれて忘れてしまうことが多いのです。それを文章という形にすること、そして人に説明することによって、掘り下げていきました。このプログラムの目的は、自分が医療に携わる中で、何を大切にしているのかを把握することなんです。印象に残っている出来事を掘り起こすことで、その人にとってのテーマが浮き上がってきます。そしてその結果は十人十色。「とにかく痛みや苦しみを早く取り除いてあげたい」という人もいれば「ご家族のケアを丁寧になりたい」という想いを持つ人も。自分が何を大切に

仕事に取り組んでいるのか、それを知るのはとても重要なことなんですよ。

### —先生にとっても、思い出に残る研修だったんですね。

**陣田** 顧問の依頼をいただいたとき、真っ先に思い浮かんだのが2年前の研修でした。あんな風に学び、高め合っていける施設のお手伝いができるなら、と引き受けさせていただいたんです。でも、お世話になることを決めてからも、本当にお役に立てるかしら？ 私に出来ることがあるの？と悩みましたよ。私が長く勤めていた大学病院は、急性期医療の現場です。ところがこちらは、高齢者医療をはじめとした慢性期医療のエキスパート。30年前から地域に根ざした医療に取り組んでいる病院というのは、私にとっても初めてのチャレンジでした。顧問に就かせていただいて1年経った今でも、新鮮な驚き、発見がたくさんあります。

### —現在は、こういった取り組みが行われているのですか？

**陣田** 御幸病院の看護師を中心に、看護の現場における課題解決をサポートしています。皆さんは「課題解決」と聞くと、問題に立ち向かうことをイメージされると思いますが、私がやっていることは、それとは逆なんです。「出来ていることをフィードバックする」ことに主眼を置いて、看護師たちとコミュニケーションを図っています。なんだか意外でしょう？

にっこり微笑む陣田先生。そのユニークな課題解決の手法とは？ 続きは次号で詳しくご紹介します。

## Dr.コラム

### 医療福祉連携の拠点を期待します

Dr.Column



## 宮崎 久義

先生

おびやま在宅クリニック(内科・麻酔科)

〒862-0924  
熊本県熊本市中央区帯山4丁目41番23号  
電話：096-297-7126

本年2月に熊本市東部の帯山で訪問診療を専門とする在宅療養支援診療所を開設致しました。診療圏は東部を中心に南部、北部と広範囲にわたっています。現場に入って「在宅医療はまさに医療・福祉全般にわたるチーム医療、連携医療そのものである」と改めて認識し、勤務医時代に出来なかった「患者さんに密着した医療」をいかにして提供するかを考えながら、やりがいのある毎日を過ごさせて頂いています。

小生は麻酔科出身ですので御幸病院には同門の岡崎先生が在職中であり、過去には清田先生、後藤先生も在職していらっしゃったことから国立病院在職中から親近感がございまして、その発展に関心をもって拝見させて頂いていました。また、尊敬

する長尾先生、江頭先生も勤めていらっしゃるの、一度御挨拶におうかがいしようと思っていましたところ、この4月に患者さんの見舞をする機会がありましたので訪問と見学をさせて頂きました。

広大な敷地の中に各種の医療福祉施設が整備され、将来をしっかりと見すえた取り組みが着実に実行されていることに驚嘆し、まさに医療・福祉の連携そのものを具現化されていて、感銘した次第です。理事長の富島先生の卓見だと拝察します。同時に職員の方々の対応が非常に良いとの印象を強く受けました。

医療・福祉の中核・拠点としてみゆきの里がますます御発展されることをお祈り申し上げます。

## みゆきのひろば

### 田園キッチン 幸田公民館料理講座

ウェルネススクエア和楽の田園キッチンでは、偶数月に熊本市の幸田公民館が主催する料理講座を担当しています。田園キッチンの東島料理長が、地域の皆様を対象に体に良い食事について、講義と調理実習を行っています。4月には煎り玄米のリゾットと春野菜のスープを作り、参加した皆さんで試食されていました。煎り玄米のリゾットについてはレシピを掲載しておりますので、読者の皆さんもご家庭で試してみたいはいかがでしょうか。



### まずは、煎り玄米を作ろう！

玄米1カップをフライパンに広げ、火をつける。ぶつぶつ音がしてはじめてきたら火を弱めにし、フライパンと木へらを使って常に玄米を動かすようにする。香ばしいキツネ色になったら出来上がり。

### 作り方 >>

- 煎り玄米に3倍の水を入れ、蓋をして沸騰するまで強火で煮る。
- 沸騰したら火を弱めて、ゆっくり煮る(10分)
- それから火を止め、蓋をしたまま放置(10分から15分)
- 牛蒡はイチヨウ切り、筍は千切りにする。
- フライパンにオリーブオイルを引いて、牛蒡を炒める(梅酢があれば利用すると良い)
- 次に筍を入れ炒める。香りが出てきたら水を入れ、野菜から旨みを引き出す。
- 煎り玄米を入れ、米が膨らんだら水解き片栗粉を入れ、ゆるいトロミを付ける。
- 塩で味を調える。

### <材料>

- 煎り玄米……………1カップ
- 水……………3カップ
- 塩……………一つまみ
- 野菜好みで(牛蒡、筍) …… 50g位
- 水解き片栗粉…………… 少々
- オリーブオイル…………… 小さじ1
- 水……………1カップ